

令和7年度 第2回岡山県入札・契約適正化委員会 議事概要（案）

開催日時・場所	令和8年1月28日（水）13:30～15:25 ピュアリティまきび 飛翔		
出席委員	高橋 正徳（元岡山大学准教授）：委員長、 難波 秀明（弁護士）、石田 麻衣（弁護士）、鳥越 貞成（公認会計士）、 上田 恭嗣（建築士） 以上5名 出席		
議事内容	審議対象期間：令和7年4月1日～令和7年9月30日		
1 談合情報の取扱状況について	審議対象期間の談合情報について、該当がなかった旨を報告した。		
2 指名停止の状況について	令和7年度上半期指名停止の状況を報告した。		
	指名停止理由（指名停止等要領該当条項）	件数	
	請負契約違反（施工不能による契約解除）（3号）	1件	
	使用人が公契約関係競売等妨害の容疑で逮捕（15号）	1件	
	合計	2件	
	※上記以外に嚴重注意を行ったものが3件		
3 抽出事案の説明及び審議	県の発注工事の中から、委員が事前に抽出した5件について、発注部局からの説明の後、委員による審議を行った結果、適正に入札・契約がなされているものと判断された。		
工事名	入札方式	契約金額 (千円：税込)	発注機関
地方創生道整備推進交付金（広域農道）	一般競争入札 (総合評価方式)	70,400	備中県民局農林水産事業部 井笠地域農地農村整備室
防衛施設周辺障害防止事業	一般競争入札 (条件付)	34,430	美作県民局農林水産事業部 勝英地域農地農村整備室
公共 漁港工事 (防波堤基礎工)	指名競争入札	38,720	備中県民局建設部 井笠地域工務課
公共 道路工事	一般競争入札 (条件付)	38,060	美作県民局建設部 真庭地域工務課
単県 港湾工事 (浚渫工)	一般競争入札 (総合評価方式)	144,100	備前県民局建設部 工務第二課
4 委員からの意見・質問、その回答	次のとおり		
5 委員会による意見の具申又は勧告	なし		

委員からの意見・質問、それに対する回答等

議事の概要／各委員の質問・意見	回答概要など
1 談合情報の取扱状況について 意見等、特になし	
2 指名停止の状況について ・ どのような状況で契約解除になったのか。 ・ 「厳重注意」を行ったものがあるが、いかなる事例だったのか。	・ 施工に当たり下請け業者が見つからず契約解除となった。結果、あらためて再入札を行った。 ・ 発注工事で作業員が怪我をしたもの。下請け業者が作業中にNTTのケーブルを破損したため、元請けと下請けを厳重注意としたもの。
3 抽出事案の説明及び審議	
①農林水産部：地方創生道整備推進交付金（広域農道）	
今期、落札件数が最多の業者が落札した工事のうち、最も高い落札率99.6%の工事を抽出した。	
・ 落札業者は、過去のデータからも高落札率で多くの工事を落札しており、偶然とは考えにくく、何らかの特別な仕組みがあるのではないかと推測したくなるが、発注者の考えを聞きたい。	・ 今回の工事が特定の業者に有利に働くようなことはないと考えている。各業者が実行予算等を踏まえて入札価格を決定した結果であると思う。工事場所が落札業者の事務所から2～3kmと近いところにあり、地元調整もしやすい等の要因もあるのではないか。
・ 落札業者は、当該地域において、一般競争、指名競争を問わず、多数の工事を落札しているが、資本規模や特別な技術を保有しているなど、他の業者と異なる点があるのか。	・ 今回の工事が一般的な土木一式工事で、どの業者も施工可能であるが、当該地域での工事実績が多くある業者は、当該地域の地元調整にも長けていると感じているが、他の業者との違いについては明確には分かりかねる。
・ 人手不足でもあり、入札参加業者が下請けに入るような場合が多いと懸念が広がるが、下請業者の把握はどうなっているのか。	・ 下請けについては、手続きをとってもらっており、2次下請けまで発注者で把握している。
②農林水産部：防衛施設周辺障害防止事業	
令和7年度上期の全発注工事のうち、最も高い落札率99.9%の工事を抽出した。	
・ 工事対象の池は自衛隊演習を起因として相当の土砂が堆積するため、定期的な改修を行う必要があるのか。	・ 演習等により土砂が堆積しているが、定期的に改修を行っているものではない。
・ 応札が3者と少ないが、地元調整が特に必要な工事だったのか。	・ 周辺に住宅等があり工事車両も通行するため地元への配慮は必要であるが、対象工事は仮設道路の撤去であり、主体工事を実施している業者との調整に時間を要する工事だと思われる。
・ 応札対象として何社を見込んでいたのか。	・ 県の入札参加資格者名簿では、奈義町で4社、勝央町では14社が参加可能と考えている。
・ 応札した3者の入札価格はバラバラであるが、積算に特有の難しさがあったのか。	・ 積算項目も少なく、一般的に積算できるもので、特殊なものではない。

③農林水産部（土木部発注）：公共 漁港工事（防波堤基礎工）	
対象期間の全発注工事の落札工事数上位10者のうち、平均落札率が最高の業者（抽出①を除く。）の落札工事で最高落札率98.9%の工事を抽出した。	
<ul style="list-style-type: none"> 本工事では2者が辞退しているが、辞退理由と一般的な辞退頻度はどの程度か聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に工事に参加する上で必要な技術者や手持ちの工事の状況、必要な資材の手配など考慮して、最終的な積算が行われる。海域工事だと、地元漁業関係者との調整が重要になるが、地域性などもあって、辞退されたと思われる。 辞退の多くは指名競争入札の際に発生するが、県全体でみると辞退が頻発している状況ではない。
<ul style="list-style-type: none"> 備中エリアの他の海域工事でも同じようなメンバーでの指名となるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 海域の土木一式工事の発注に限定すると、井笠地域の4者は、海の工事で、高い技術的水準と施工実績を持つ業者で、実際に井笠地域内にはこれ以上の業者はいない。さらに近隣の児島地域の業者で同様の実績を持つ業者を追加して発注している。海域工事の指名競争入札においては、このメンバーで発注することになる。
<ul style="list-style-type: none"> 当該地域では、特定の工事にあっては施工業者が少なく、漁協との事前の調整が必要であるという話を聞くと、特定の事業者が継続し落札していると思われるがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> 井笠管内では、地元漁業関係者との調整が必要となる中で、地元業者の方が地域性を生かして、落札してくることが多いのではないかと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> 実効性は不確かだが、辞退理由を確認する仕組みがあっても良いと思うがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞退理由について、他県がいかなる対応をしているかの調査を行ったことはない。また、中国地方や全国の自治体から、辞退理由を確認する仕組みについて照会を受けたことがないというのが状況である。
④土木部：公共 道路工事	
農林水産部及び土木部の直近3年間の発注工事の落札工事数上位5者のうち、今期の平均落札率が最高の業者（抽出①及び③を除く。）の落札工事のうち、最高落札率98.1%の工事を抽出した。	
<ul style="list-style-type: none"> 近隣の工事では、多数の業者が入札に参加しているにもかかわらず落札率が97%から98%と高止まりしている状況だが、この地域でも同様の傾向があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域にもよるが15社前後ぐらいの業者が入札に参加し、応札している。工事内容によって落札率が高いところもあれば非常に低いところもある。落札率が高くなる要因としては、最近働き方改革などを推進する中で、会社から現場まで遠く、移動時間が長くなると、現場での作業効率が落ち、工事ははかどらず、経費が嵩みコスト増につながることもある。また、山を掘削する工事や重機作業だと、建設発生土の運搬等でダンプトラックの確保が難しいなど、様々な要因がコストアップに影響するのではないか。

⑤土木部：単県 港湾工事（浚渫工）	
<p>今期の総合評価落札方式による発注工事のうちで、落札工事数かつ落札工事合計金額が最大の業者の落札工事のうち、最高落札率98.0%の工事を抽出した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・本工事の対象となる業者は、何社程度か。 また、入札参加できる業者がこの分野では数社しかいない状況だが、この種の工事は手配が難しく、実質的に参加できる業者が限られるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の入札条件で県の入札参加資格を有する浚渫工事の業者は30者おり、そのうち営業所所在地に関する条件を満たす業者は27者を確認している。そこからさらに施工実績の条件も加わるが、20社程度は参加条件を満たしている。 ・浚渫工事などの海域工事については、地元漁協との調整が重要であるが、そうした点について他地域の業者は参加しにくいと感じるのかもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価方式を設定したことによって、他の業者が参加しにくいという傾向があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は2者の参加であったが、総合評価の条件については、決められた要件の中で競争性を確保できる数の業者が参加可能な条件としており、適切に入札が実施されると考えている。
4 その他	
意見等、特になし	